

齊藤良子 『初級韓国語学習者の学習態度の変容に関する研究』（ひつじ書房、2018年）

***本の概要**

本書は、初級韓国語学習者の学習動機、学習ビリーフ、学習ストラテジーといった学習態度の特徴と学習経験による変化を明らかにするために実証的研究を行い、その分析結果をまとめたものである。本研究の結果、大学で前期と後期の初級韓国語の授業を受講し、約1年間の学習経験を重ねることによって、学習者が韓国語は易しいと考えるようになり、韓国語で話すことに対する不安が軽減され、使用する学習ストラテジーも増え、韓国語学習に慣れ親しんでいくことが明らかにされた。しかし、前期に比べ、後期の方が学習に対する前向きさや楽観的な態度が薄れてきていることも示唆された。さらに、本書では実際の変化と学習者本人が認知している変化についても調査、比較した。その結果、実際の変化と認知されている変化に差がみられ、学習者自身は肯定的な変化のみを認知していることがわかった。このことから、学習者自身は、実際の変化に関する調査で明らかになったやる気や楽観性の減退を感じておらず、以前よりも積極的に前向きに学習に臨んでおり、ストラテジーも多様化されたと認知していることが明らかにされた。本書の結果は、韓国語学習者を理解し、より良い学習環境を提供することに微力ながら役立てられるのではないかと考える。

***著者略歴**

1979年東京生まれ。2013年東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻博士課程修了、博士（学術）。東京大学東アジアリベラルアーツイニシアティブ特任講師（2013年～2018年）を経て、国士舘大学政経学部専任講師（2018年～）。主要な業績は『言語学習と国、国民、言語に対するイメージ形成の研究』（J&C、2012、分担執筆）、『外国語教育学研究のフロンティア—四技能から異文化理解まで—』（成美堂、2009、分担執筆）、『일문의 한국어학 : 문법・사회・역사（日本の韓国語学 文法・社会・歴史）』（삼경문화사、2015、分担執筆）など。

[関連 URL] <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-879-6.htm>